

日本聖公会
**ウィリアムス
 神学館ニュース**

**戦争は常に
 聖戦として戦われる**

勝村 弘也

蔵書を整理していたら、昭和一四年朝日新聞社発行の『聖戦美術展集』が出てきた。これを見ると多数の画家たちが戦争賛美に動員されていたことが分かる。画集の冒頭には小磯良平の描いた南京での戦闘場面が載っている。どちらかと言うと「美しい絵」で、そこからは戦争の悲惨さは感じられない。今、国会の内外で激しく議論されている安保法案（戦争法案）に関する安倍首相の説明も、どこかよそよそしい。戦争の現実を隠蔽するためだろうか、比喩に持ち出すのは平時の出来事である。いったん戦争に巻き込まれたら平時では戦争とは無縁の医療関係者、芸術家、そして宗教家までもが戦時体制に組み込まれる、と言うのが先の大戦の遺した大きな教訓だった。

近代的な戦争の始まりは、徴兵制によって国民軍を編成したナポレオンによるものとされる。この戦争を分析したクラ

2015年
 第92号

The Bishop Williams
 Theological
 Seminary NEWS
 日本聖公会
 京都教区
 発行・編集人
 吉田雅人
 〒602-8011
 京都市上京区烏丸通
 下立売上る 桜鶴町門 380
 ☎ 075(431)5406
 FAX 075(431)5445
 Williams@muc.
 biglobe.ne.jp
 寮 ☎ 075(431)5408

ウゼヴィッツは、『戦争論』の中で戦争は国家による政治的行為であることを強調している。帝国主義時代の戦争には経済的な要因が強く働いていることをレーニンは洞察した。戦争に関するこのような合理的説明には、しかしながら、重大な側面が欠けている。なぜなら古代・中世においてのみならず現代における戦争もまた「聖戦」だからである。国家は常に正義の旗を掲げて戦争を遂行する。ここに一つの危うさがあるし、また神学的な問題も存在する。

この意味では、戦争の場面が多い旧約聖書の批判的な読み直しには、大きな意味がある。ヨシユア記、士師記、サムエル記では、イスラエルが先住民や侵入してきた外敵に対して行なう戦闘が、イスラエルの神ヤーウエが戦う「聖戦」として描かれている。G・フォン・ラートは、一九五一年に古代イスラエルにおける聖戦に関する有名な論文を発表した。旧約学ではその後、フォン・ラートの聖書解釈の妥当性をめぐって論争が続いている。学問的議論には、複雑な手続きが伴うので、ここでは論争の

内容を紹介する事は出来ない。

ウィリアムス神学館の講義では、これまで士師記やサムエル記のような歴史文学には、あまり時間をかけてこなかったのだが、今や聖戦の問題は避けて通ることが出来ないテーマである。聖書に向き合いながら神学生のみなさんと共に考え学ぶことにしたい。

(かつむらひるや・本館教員・旧約学担当)



九月一五日(火)、管区の礼拝委員会が終わった後、同僚のS司祭にお願いして国会議事堂前まで乗せて行っていただいた。議事堂前の歩道は警察車両と制服警察官によって囲まれており、なかなか降りる場所がみつからない。ようやく議事堂の南東角で降りてもらい、国会正門前をめざして歩き始めたところ、静かな語りが聞こえてきた。それはジャングル大帝や葉っぱのフレディを製作した、アニメ監督の宇井孝司さんだった。彼はそのスピーチの中で「アニメーションの語源はアニメ anima で、命という意味だ。命づける、命が生まれるというのがアニメーションだ。自分は平和憲法のアニメーションを作りたいと思っていたが、それは既にここできている」と静かに語っていた。

安保法案は強行採決されたしまったが、がっかりする必要はない。「あきらめることなく」、私達の国が平和憲法を守り続け、平和の実現のために自分のできることをし、祈り続けることが大切だと思う。私たちの宣教牧会も同じで、「御言葉を宣べ伝えなさい。折が良くて悪くても励みなさい」(Ⅱテモ4:2)という聖句を胸に刻んで歩みたい。キリストにある命を生きるために。

(吉田 雅人)

新入生自己紹介

春の神学館ニユース91号でもお知らせしましたように、去る四月八日(水)に、二〇一五年度ウィリアムス神学館入学礼拝が、京都教区主教座聖堂(聖アグネス教会)で行われました。ヒューム・ユークンさん(大阪)は三年間の本科生として、松山健作さん(京都)と江渡由直さん(京都)は教区派遣科目聴講生として、それぞれ二年間また二年間の学びをされます。以下で三人の方々に自己紹介をしていただきます。

身体の薬師から魂の薬師へ

ヒューム ユークン ユーワン



会出身のヒューム ユークン

今年の四月から本科生としてウィリアムス神学館で学ばせて頂く、大阪教区の川口基督教

ンでございます。私はイギリスの北部、スコットランドのエンジンバラで生まれ育ちました。大学院を卒業した後にスイスで働き、一九九六年に日本に来ました。日本では研究員として医薬品の研究開発をし、川口基督教会で信徒奉仕者として奉仕しました。私は日本人と結婚して、息子(小6)と娘(小1)がいます。

聖職を志すことは突然なことではなく、数年前に神からの呼びかけを感じていたのですが、すぐにそれにお答えする事ができませんでした。イギリスに帰るかどうかが家族はどうするとか、退職することも必要なので様々な悩みと心配がありました。その間に祈りとして、神様の恵みによって二〇一三年に大阪教区に聖職候補生志願書を提出しました。母語は日本語ではありませんが大阪教区でウィリアムス神学館特別出張講座に参加したので神学館でどのような勉強をするか、少し想像できました。神学館では忙しいですが暇な時にクラシック音楽を聴いています。ルネサンス期の音楽が私の好みです。

神様のみ恵みのうちに、また皆様のお祈りのうちに神学館での祈りと学びをして、日本における聖職としてこれからの生涯を献げたいと思っています。

(大阪教区神学生)

課題をもって少しでも前進したい

アンデレ松山 健作



今年度よりウィリアムス神学館に入学させて頂きました。聖職候補生

の松山健作と申します。神学館での生活は、昨年度より聴講生として一年次の授業を聴講させていただきました。はや一年半が過ぎました。日々の学びと生活において目標としていることは、一日一日を大切に、課題をもって少しでも前進することです。もちろん、ときに前進できず、停滞あるいは後退するように感じることもしばしばです。

しかし、一年半経っても新鮮に感じられるのは、神学館で一日三度行われる朝夕の祈りの時間です。平素より自らの祈りの課題をもってチャペルにて過ごす営みは、非常に重要に感じています。かつ祈ることによって何か自らも勇気づけられ、励まされ、また新たな一日、新たな時間と課題が日々与えられていることを実感しています。

また土日の教会実習を通して、常に信

徒のみなさまよりご支援いただき、ご祈
 禱いただいたことを心に刻み、感謝
 しております。神学館での学びが今後よ
 り深められ、学友と共に生活できる時間
 を大切にし、訓練し、自らの遣わされる
 現場への準備ができればと考えておりま
 す。(まつやまけんさく・京都教区聖職候補生)

終わりが始まり

アンデレ江渡 由直



四月にウ
 イリアムス
 神学館入学
 させて頂き
 ました、京
 都教区のア
 ンデレ江渡

由直です。自己紹介をさせていただきます。

父が青森（八戸聖ルカ教会）でしたの
 で、関西でも珍しい名前です。私は大和
 （奈良）生まれの大和育ちで二代目クリ
 スチャン、年齢は六五歳。十歳の時に高
 田基督教会で洗礼を受けてからの五五年
 間は、東京での一年と名古屋の聖マルコ
 教会での三年間を除き、高田での主日礼
 拝をひたすら両親と共に守って参りまし
 た。企業人としてはトヨタのディーラーで

三〇年、その後は東京海上の研修センタ
 ーで一五年務め、この春に企業人を卒業。
 三月に私の口癖「終わりが始まり」の思
 いから、サラリーマン生活を切り上げ、
 また、十年間の神学館聴講生活も同時に
 卒業(?)して、神学館に入学しました。
 神学館生活は祈り・学びが一杯詰まっ
 た日々で、サラリーマン時代より厳しい
 ですが、神様の導き、みなさまの祈り、
 そして先生方のご指導を頂きながら、ま
 た、神学館で共に学ぶ先輩・同期生から
 も元気をいただきながら頑張っています。
 私は一年間で神学館を出て行きますが、
 これからも祈りとご指導でお支え下さい。
 よろしくお願いいたします。感謝
 (えとよしなお・京都教区神学生)

「ウィリアムス神学館叢書」刊行!!

この度、京都地方部でお働きになった
 永田保治郎師とのお働きを記念する皆
 様から、神学館に多額の献金をいただき
 ました。神学館はその御趣旨を大切にし、
 「永田保次郎師記念基金」として研究や
 教育のために用いさせていただくことと
 し、その一環として信徒・聖職の皆様の教
 会関係の学びのために「ウィリアムス神
 学館叢書」を発刊することになりました。

その第1号として、2014年から始まり
 ました「いまさら聞けない!? キリスト教
 講座」で、参加された皆さんから出され
 た、聖公会の礼拝や祈祷書に関する、多
 くの疑問に答えた講義を、一冊の本にま
 とめて出版することになりました。

10月19日発行予定

ウィリアムス神学館叢書 I
 いまさら聞けない!? キリスト教
 礼拝・祈祷書編

著 司祭 吉田雅人
 発行所 聖公会出版 A5版 340頁
 予価 2,000円 (+税)

ヴィア・メデイア第10号発行

今年度もウィリアムス神学館紀要『ヴ
 イア・メデイア』を発行しました。
 論文

- 「入る」イエス (前川 裕)
 - アウグスティヌスにおける聖餐理解 (菊地伸二)
 - 聖歌の言葉と伴奏の関係 (辻 彩乃)
 - 「日本聖公会神戸教区初代主教は誰か (中原康孝)
 - 生ける神との交わり
 - T・克蘭マーの聖餐論— (林 和広)
 - 2014年度卒業小論文要旨
 - ウィリアムス神学館報告
- (ご希望の方は神学館までご連絡ください。)

神学館の一学期

☆4月6日(月)、入寮日

☆4月7日(火)、ウイリアムス主

教記念碑清掃(雨天中止)

☆4月8日(水)、入学礼拝

☆4月9日(木)～11日(土)、

オリエンテーション・合宿

(学期始めリトリート兼ねる)

黙想指導:小南 晃司祭、

(宇治カルメル会)

☆4月14日(火)、一学期授業開始

☆4月18日(土)、教会実習開始(1年生)

☆4月19日(日)、教会実習開始(2・3年生)

☆4月25日(土)、いまさら聞けない!?

キリスト教講座開講

「み言葉の奉仕」(黒田裕司祭)

☆5月22日(金)、神学館ニュース発行

☆6月23日(月)、15年度第一回理事会

☆7月4日(土)、一学期授業終了

☆7月7日(火)～11日(土)、

試験・レポート提出期間

☆7月12日(日)、一学期教会実習終了

☆7月14日(火)～15日(水)、補講・面接

☆7月16日(木)、一学期終業礼拝

☆7月18日(土)、出寮日

☆7月31日(金)、一学期末教授会

☆8月20日(木)、聖公会関係学校教職員
研修会(協議会代表者会)

聖職叙任おめでと〜ございます

卒業生の聖職按手式が左記のように行われしました。今後のお働きの上に神様の御導きをお祈りいたします。



七月一八日(土)、京都教区主教座聖堂(聖アグネス教会)で執事按手式および司祭按手式が行われました。

モーセ石垣 進聖職候補生とプリスカ中尾貢三子聖職候補生が、公会の執事職に叙任されました。

エレナ古本みさ執事とマタイ古本靖久執事が、公会の司祭職に叙任されました。

主の平安をお祈りいたします

*二〇一五年四月一八日(土)、本館元理事のヨハネ桑原一郎司祭(神戸教区退職)が逝去されました。師の魂の平安をお祈りいたします。

*二〇一五年七月一日(水)、本館元教授のサムエル関本 肇司祭(沖縄教区退職)が逝去されました。師の魂の平安をお祈りいたします。

寄付・献金の「ご報告

左記の教会・団体及び個人の皆様から直接ウイリアムス神学館経常会計にご寄付いただきました。敬称は略させていただきます。なお、神学館後援会にご寄付くださった方は、「後援会報告」をご覧ください。

◇2014年度のご寄付は以下の通りです。

神戸教区、神戸教区婦人会、京都伝道区信徒伝道協議会、京都教区小学生キヤンプ、聖オルバン教会(2件)、聖アグネス教会、聖光教会、新宮聖公会(2件)、大西 修、齊藤 壹、張 聖子、梅野充慧、宮本紘明、山本 眞、

計 四三四、八〇六円

◇2014年度分の協力献金は以下の通りです。

横浜教区、中部教区、大阪教区、神戸教区、京都教区 計一、四〇〇、〇〇〇円

◇例年のように管区事務所より「神学校のための祈祷日」献金 二〇、〇〇〇円を受領しました。お献げくださいました全国の教会の皆様感謝いたします。

◇神学館後援会より二、七〇〇、〇〇〇円の寄付金(献金)を受けております。この詳細については「神学館後援会報告NO.49」をご覧ください。

以上、心から感謝しご報告を申し上げます。